

# 学びの楽しさを、指導しましょう。

石井康雄（前船橋市立金杉台小学校 校長）

Q

1年生「大きいかず」では、どのように学びの楽しさを指導したらよいでしょうか？

A

この単元は、「10よりおおきいかず」と同じような流れで指導していきましょう。事前準備として、トレイに同数の数え棒を用意しておきます。そして、子供たち一人一人に数えさせ、数え終わったら、数を発表させましょう。全員の答えが一つにならなかったら、どうやって数えれば間違いを無くせるかを考えさせましょう。正しい数え方を考えることが学びの楽しさにつながります。楽しさというとゲームなどと考えがちですが、ゲームは刹那的な（その場限りの、偶然の）楽しさと考えます。今回は、正しい解答を得るまでに、そのための努力や困難がついてきますので、この困難を乗り越えようと思思考する活動が学びの楽しさと言えるでしょう。

P100の「かずのかきかた」では、「10よりおおきいかず（20までの数）」との違いをしっかりと覚えさせましょう。20までの数では「じゅうといくつ」という見方が中心で、十の位が常に「1」でしたので、子供たちは十の位をあまり意識しなくてもよかったです。ここでは、十の位が「1から9まで」になりますので、十の位や一の位の部屋をつくらせるなど位取り記数法を意識させることができます。空位がある場合もありますので、0の指導をしっかりとしましょう。

100までの数では、P102のような掲示物をつくることで、子供たちに量感をつかませることができます。P103の表も並べて掲示し、教師が工夫した発問をすることで、葉の数を数えさせることができますし、100マスのワークシートを用意しておけば、毎時間の初めに順序よく数をかかる活動を取り入れることもできます。さらに問3では、子供同士で問題の出し合いをさせると、学びの楽しさを味わせることができます。

P104の数の大小比較は、どの位を見て大小を判断するかという、思考力、判断力、表現力を問う学習です。おはじきゲームは指導例ですので、先生方の創意で行わせましょう。ここではゲームが学習の中心ではないので、問5では、答えとその理由をしっかり表現させることが大切です。P105の問7や問8では、数がどんなきまりで並んでいるかを表現させましょう。この時期の子供たちにとって、この2問は、かなりの難問です。この問題が、「偶然できた」「解いていたらなんとなくできた」だけではなく、「解き方がわかり、解き方を説明できるまで、納得した」となれば、数が万や億になっても小数や分数になっても、正しく解くことができます。

P106の100までの数字をみつける学習では、教科書の例を確認した後、地域の実態にあわせた指導をすると、学びの楽しさを味わわせることができます。さらにP107の買い物では、そらさんとれんざ

んのお金の出し方を比較し、どれとどれが同じなのかを発表させ、同じ答えでも表現の仕方が違うことをつかませましょう。出し方をいろいろと考える中で「これ以上、出し方は無い」と判断させれば、4年生の調べ方や6年生の場合の数につながる、落ちや重なりなく数えるという深い学びにもなります。

P140の100をこえる数では、106や113など120程度までの数を例にあげて、下2桁は1から99までの数え方と同じになることに気づかせます。そして、子供たちと一緒にになって、先に作成した100までの数の表の下部にP109のように付け加えていきましょう。さらに、この表がもっと下に長かったらどうなるかを予想させれば、2年生の「100をこえる数」へのなだらかな移行ができます。

Q

## 1年生 「なんじ なんぶん」では、時刻の読み方をどのように指導したらよいでしょうか？

A

既習の「なんじ なんじはん」との学習内容の違いをはっきりさせましょう。「なんじ なんじはん」の学習では、短い針で時刻をよむことが中心でした。長い針が12の位置にあれば、短い針が指している数字と同じ〇時となり、長い針が6の位置にあれば、短い針の位置より手前の数字の〇時半になりました。

本単元では、長い針が指している時刻を読み取りますが、文字盤が60に分かれていることに気づかせて、15分や23分のような文字盤には書かれていらない数字をよませなくてはなりません。そこで、挿絵のような場面を設定します。最初の発問は、「チケットを買ったのは、何時でしたか。」です。この答えは、子供たちからすぐに「9時」と出てきます。そして、その理由も説明できますが、次の発問が重要です。その発問は、「遊園地の入り口に着いたのは、何時何分ですか。」「どの時計を見てそう思いましたか。」です。入り口に着いた時刻はわかっていて、短い針の位置は9時と10時の間にあり、チケットを買った時刻とほとんど変わっていません。ここまで確認して、長い針の読み方を考えさせましょう。学習問題を立てるときには、「今、何時何分ですか。長い針の読み方を説明しましょう。」になります。もっと具体的には、「今、9時何分ですか。長い針の読み方を説明しましょう。」になります。そして、まとめ方として、最初に「短い針で、何時か？をよむ。」次に、「長い針で何分か？をよむ。」となります。

本単元の事前調査として、子供たちがデジタル時計にどれくらい馴染んでいるか、どれくらいよめるかを調査しておきましょう。また、各家庭におけるアナログ時計の有無や、保護者が子供たちにアナログ時計に触れさせる機会をどれくらい与えているかなどの調査も必要と思われます。

最近では保護者が入学時に算数教具を購入する際、セットではなく単品で購入するようになってきました。そのため、アナログ時計も単品で購入してもらえるような配慮をしていきましょう。なぜなら、時計の学習では、よむより針を合わせるほうが大変であったり、針の動く様子を見て、2年生で学習する時間の素地を体験したりといった、実際の操作が重要だからです。P114の問5は、答えとその読み方を説明させます。問6は正解を選ばせるとともに、不正解の答えには、各自の時計でその時刻に合わせさせたり、どこが間違えやすいのかを聞いてみたりすれば、より確かな学力につながります。

